

京都新聞

2月20日
火曜日

京都新聞社
The Kyoto Shinbun Co., Ltd.

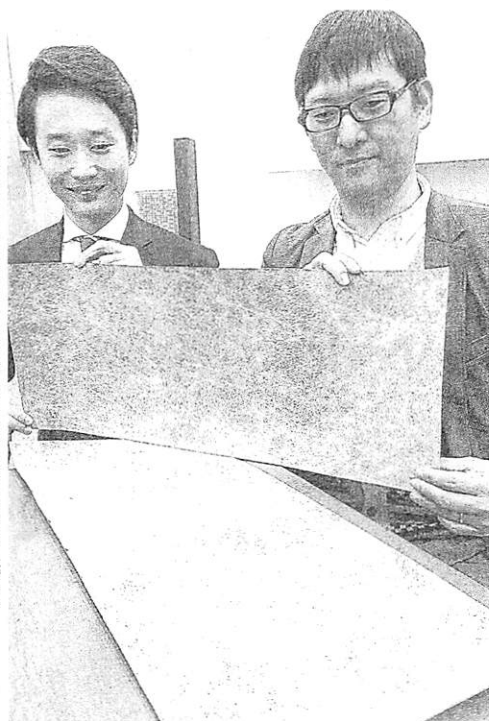
発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル

京都大の北川進教授らが開発した「多孔性金属錯体（PCP）」を基に、京都の中小企業が高性能の消臭剤を開発した。たばこなど従来は残りがちだった臭いを効率的に除ける。商品化されれば、国内では初めてのPCPの実用化になるとみられる。先端の知見を持つ京大と、長年の販売実績のある中小企業がタッグを組んだ形だ。

京大と京の中小企業 開発タッグ

高性能消臭剤 たばこ臭完封

化学薬品メーカーの「大原ハ
ラチウム化学」（京都市上京区）
が、PCPの開発によりノーベ
ル賞候補と言われる北川教授の
下で研究する樋口雅一助教の協
力を得て開発した。
PCPは、一辺が数ナノ以下
の立方体がジャングルジムのよ
うに連なった構造を持つ。金属
イオンが各頂点にあり、臭いの
もととなる物質を引き寄せて立
方体内に取り込む。同社による
と、従来の活性炭などに比べて
臭いを吸着できる力が数倍にな



消臭剤の開発のために協力した樋口助教（右）と大原取締役

京都市左京区・京都大物質・細胞統合システム拠点

PCP 国内初実用へ

り、消えにくいたばこ臭や排せ
つ臭をほぼ完全に取り除けると
いう。特殊な樹脂と混ぜて、厚
さ約1ミリのシートとなってい
る。

同社で技術部門を統括する齋
藤公一さんが2014年7月こ
ろ、PCPを使って水をはじく
機能性材料を北川教授らが開発
したという新聞記事を読み、樋
口助教に連絡を取ったのがぎっ
かけ。PCPの構造を知り、「消
臭剤にも使えるはず」とひらめ
いた。樋口助教から技術指導を
受け、15年4月から1年半かけ
消臭剤を完成させた。現在、消
臭剤を使った空調フィルターな
どを手がける業者と協力して、
商品開発を進めている。

同社の大原正吉取締役は「企
業にとっては魅力あるシーズ
（種）が大学には眠っている」
と話す。技術を提供した樋口助
教は「大学で開発したシーズを
実用化する時に、いつも壁を感じ
てきた。技術革新を求める京
の中小企業と組むことで壁を突
破できれば」と期待する。

（広瀬一隆）